

祈りとヴィジョン

— ヒルデガルトとゾイゼを例にして

上智大学中世思想研究所主催講演会



altam pfunditatem expositionis libror
ut p̄dixi sentiens. iuribusq; receptis. de
egritudine me erigens iux opus istud
decem annis consummans ad finem
p̄duxit. In diebus autem hēnrici
ooguntini archiep̄i ⁊ Conradi roma
nouum regis ⁊ Gionis abbatis in
monte beati d̄ysibodi pontificis.
sub papa Evgenio hē uisiones ⁊ uerba
facta sunt. Et dixi ⁊ sc̄psi hęc n̄ secundū
admonitionē cordis mei aut ullius ho
minis. sed ut ea in celestib; uidi. audiui
⁊ p̄cepi. p̄secrēta misteria d̄i Et iterum
audiui uocem de celo michi dicentem.
Clama ⁊ scribe sic.

Incipiunt capitula libri sciētiā
simplicis hominis

Capitula p̄nc uisionis p̄nc partis.

I. De fortitudine ⁊ stabilitate eternitatis
regni dei.

ii. De timore domini.

iii. De his qui paupes sp̄s sunt.

iiii. Quod uirtutes a d̄o uenientes. t̄ntes d̄m
⁊ paupes sp̄s custodiunt.

v. Quod agnitioni d̄i abscondi n̄ possunt
studia actuum hominum.

vi. Salomon de eadem re.

2016 2/28 Sun. 13:20-16:50

会場：上智大学四ツ谷キャンパス 2-508 教室 (2 号館 5 階 開場 13:00)

13:20-13:30 開会挨拶

13:30-15:00 ご講演 細田あや子 (新潟大学)

15:00-15:15 休憩

15:15-16:45 コメント 矢内義顕 (早稲田大学)

／質疑応答・司会 佐藤直子 (当研究所所長)

16:45-16:50 閉会挨拶

* 進行 梅田孝太 (当研究所配属特別研究員)

連絡先：上智大学中世思想研究所 TEL: 03-3238-3822 / e-mail: imdthght@sophia.ac.jp

祈りとヴィジョン

——ヒルデガルトとゾイゼを例にして——

ご挨拶

このたび上智大学中世思想研究所では、西洋中世美術史を中心に、広く宗教美術をご研究されている細田あや子先生をお招きし、ご講演をいただくこととなりました。中世ドイツの二人の神秘家、ビンゲンのヒルデガルト (Hildegard von Bingen 1098-1179 年) とハインリヒ・ゾイゼ (Heinrich Seuse 1295/97 頃-1366 年) の「ヴィジョン (幻視)」の比較を通して、ヴィジョンと祈り、また儀礼の有機的關係を考察していくことが主題です。

宗教美術のその本来の場 —— 具体的な歴史のうちにある信仰共同体 —— への現出は、時に、個人のきわめて劇的な体験を通して為されます。「ヴィジョン (幻視)」の体験はそうしたものの極みでありましょう。中世の文献にはキリストやマリアの出現譚が散見され、それらの多くは神秘的幻聴の記述をも伴います。こうした幻視体験はテキスト化されるのみならず、ヴィジョンそのものも可能なかぎりでヴィジュアル化されます。個人的な神秘体験は、こうした客観化を通して共有され、当人にも、また当人が帰属する共同体にも、祈りと霊性の深化をもたらしてきました。

「ヴィジョン (幻視)」とは何かという問いはきわめて大きく、即座に答えることは難しい」と講演者は率直に語っておられます。そこで、ヒルデガルトとゾイゼという二人の神秘家のヴィジョンがどのような現場で生じ、各々の霊性の醸成にいかなる役割を果たしてきたかについて修道院神学の立場で矢内義顕先生のコメントをいただきながら、人間の宗教的態度・行為とヴィジョンさらには像 (イメージ) との関わりについて、学際的に考えを巡らせる場を皆様と共有したく存じます。さまざまな専門の研究者の方々、一般の方々の聴講を心より歓迎申し上げます。

上智大学中世思想研究所所長 佐藤直子

講演者・コメンテーター紹介

細田あや子 (新潟大学人文学部教授) : 東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得退学、ハイデルベルク大学博士課程修了 (Dr. phil.)。刊行論文・著作 : *Darstellungen der Parabel vom barmherzigen Samariter*, Michael Imhof Verlag 2002、「ヨブ夫妻の図像学」『経験としての聖書』(リトン、2009)、『「よきサマリア人」の譬え——図像解釈からみるイエスの言葉』(三元社、2010)、「光り輝く者との交感——ヒルデガルト・フォン・ビンゲンのヴィジョン」『共感と感応』(東北大学出版会、2011)、「中世における幻視と夢」『イスラーム哲学とキリスト教中世 III』(岩波書店、2012)、「祈りの言葉とイメージの力」『感情と表象の生まれるところ』(ナカニシヤ出版、2013)、他。

矢内義顕 (早稲田大学商学学術院教授) : 上智大学中世思想研究所編訳監修『中世思想原典集成 10 修道院神学』(当巻監修、平凡社)、「カンタベリーのアンセルムスにおける信仰と理性」、上智大学中世思想研究所編『中世における信仰と知』(知泉書館、2013 年)、K・フラッシュ『ニコラウス・クザーヌスとその時代』(翻訳、知泉書館、2014 年)、R・W・サザーン『カンタベリーのアンセルムス——風景の中の肖像』(翻訳、知泉書館、2014 年)、他。

